

「チンアナゴの模型づくり(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

チンアナゴとニシキアナゴの「模型」は、一人5匹ずつ作れる。できあがったものは、水族館の本物と同じように、たくさん並べて楽しむ姿が見られた。



これはちょっと混雑しすぎだろう。しかし、頭の向きが揃っているのが面白い、水族館の実際のチンアナゴも、ほとんどのものが同じ向きに揺れているのだ。



実は、5匹分のチンアナゴの型紙のうち、1匹分は、白いまま(無地)にしておいた。子どもが自由に「新種」のアナゴを作れるようにと思ったからだ。これは面白かった。例えば右上の写真は「ニジアナゴ」。他にも、「ミズタマアナゴ」「シマムラサキアナゴ」「アオカンムリアナゴ」「ピンクアナゴモドキ」など、実際にありそうな名称のものもあった。



新種「ニジアナゴ」 *Heteroconger nijiae* 完模式標本



この子どもは展示方法の工夫をしていた。筆箱に挟むとは面白い。「連れて帰って、春休みにこのまま玄関に飾っておく」と、喜んでいました。



少し短く切って、パンチで孔を開け、毛糸を結んで「しおり」を作った子どももいた。これも大流行して、孔あけパンチの前に、大行列ができていた。

水族館を利用した校外学習と連動した「チンアナゴの模型づくり」は、3年生の理科最後の楽しい活動になったように思う。